

学年団による特色ある進路指導行事の創造（その2）

—60回生進路指導行事—

国語科 風間 重利

本稿は、平成18年4月入学の本校60回生の2年次8月までに学年団（3年間持ち上がりの担任集団）が中心となって構想、立案、実施した進路指導行事の報告書「学年団による特色ある進路指導行事の創造（その1）」（本校「高校教育研究 第59号」）の続編である。

以下に、（その1）で記したこの報告書の見出しを再掲する。

1 各行事の実施要領（内容と方法）

- A 第1回金沢大学体験
- B 京都大学体験（その1）
- C 京都大学体験（その2）
- D 第2回金沢大学体験
- E 東京大学体験
- F 卒業生との懇談会
- G 国会・科学未来館体験
- H 東京職場訪問体験

2 各行事の目的

3 各行事の評価

「（その1）」では、上記の「1 各行事の実施要領（内容と方法）」に従って本校60回生の進路指導行事の具体的な内容を記述した。今回「（その2）」では「2 各行事の目的」「3 各行事の評価」について、この間、生徒・保護を対象に1月1回の割合で発行してきた「60回生通信」の記事など利用して記述する。

2 各行事の目的

A・D 金沢大学体験

（平成18年6月22日（木）、11月13日（木）実施）

この企画の目的について、最初に生徒に連絡したのは「60回生通信（第3号）」（平成18年5月25日発行）においてである。以下にその内容を引用する。

「……学年担任団が企画している学年行事についてその概要を連絡しておきます。現在、企画している行事に、『金沢大学で学ぶ』があります。この企画は、大学の先生を本校に招いて講演を聞かせて頂くといった行事ではありません。事前に提示された課題を自分自身で学習した上で、実際の大学で講義や実習・実験に参加し、大学教授から指導を受けるというものです。『大学で学ぶ』この意味に触れる機会としたいと考えています。第1回は6月22日、第2回は11月13日に実施の予定です。……『受身で学ぶ』のではなく、『自ら求めて積極的に学ぶ』姿勢を確立するのがこの行事の狙いです。」

また、この企画に協力いただいた金沢大学側には「金沢大学体験の方法とねらい」について以下のように伝え、協力をご依頼した。

「① 複数の学習プログラムの中から、生徒本人の興味・関心に合わせて、本人が学習内容を選択

する。各プログラムは可能な限り少人数で実施し、じっくり時間を取って、高度な研究について学習に取り組む。(選択制・少人数制・深い学習)

- ② 生徒本人が、実際に専門的な学問研究が行なわれている現場に出かけて、研究の場や研究者の人柄、研究内容に触れる。(人格的に触れ合う学習の場)
- ③ 以上のような体験を通して、生徒の学問研究への興味・関心を高揚させ、将来の進路（職業・大学・学部）についても考えさせる。(学問・進路選択への興味・関心)
- ④ 各人の日常の学習意欲を高める契機とする。(日常の高校生活の充実)

B・C 京都大学体験

(平成18年8月23日(水)・24日(木)実施)

この企画について、最初に生徒に連絡したのは「60回生通信(第3号)」(平成18年5月25日発行)においてである。金沢大学体験の次に学年担任団が準備している企画として以下のように紹介した。

「……また、夏の現地学習(大和・京都現地学習)では、『京都大学で学ぶ』の企画を進めています。この数か月、京都大学には無理なお願いを続けてきましたが、とうとう『特定の学校のために特別な便宜は図れない』という固い扉が開きつつあります。京都大学が金沢大学附属高校生のためだけに学習の場(京都大学附属大学図書館学習・京都大学桂キャンパス学習・京都大学研究室訪問など)を提供する企画が徐々に実現に近づきつつあります。これは期待して下さい。」

そして平成18年7月19日に実施した「『京都大学体験』の選択希望調査」で以下のようにその行事の

目的と方法を生徒に連絡した。

「……『60回生通信(第4号)』で皆さんに連絡しておきました60回生の進路指導企画である『京都大学体験』の実施要領を以下に提示します。……この企画は、皆さんが実際に京都大学に出かけて、そこで行なわれている学問や研究者の人柄に触れ、自己のこれからの進路や生き方について考えることを目的としています。」

また、平成18年9月17日発行の「60回生通信(第7号)」では以下のようにその行事の目的と方法を総括した。

「この『大学訪問』事業は、60回生の3年間を通じた進路指導の一環として『金沢大学訪問』に引き続いて計画、実施したものです。その目的は、生徒が自ら大学を訪問し、自らの興味関心をもとに学習プログラムを選択し、十分な時間を取って優れた研究者・学生と身近に接することでその学問や人格に触れ、自分自身の進路について深く考える機会とするとともに日ごろの学校生活での学習意欲を高めることにあります。基本的な方法論のコンセプトは、『自分で行く』『自分で選ぶ』『普段は出来ない独自の深い体験』です。

本来、学年行事とは学年全体が同一の行事を体験し、協調性や団結力を養うものですが、この企画は思い切って学年という集団を自己の興味関心に合わせて複数の段階に細分化し、その時々でグループの編成を自在に切り替えながら、集団活動の中で各自が独自の経験を積むことを目指しています。学年行事としては相当に複雑で特殊なものです。その実行にあたっては、緻密な計画の立案は当然として、生徒の非常に切り替えの早い臨機応変な頭脳、高い協調性が要求されます。」

E 東京大学体験

(平成19年7月24日(火)・25日(水)実施)

F 卒業生との懇談会

(平成19年7月25日(水)実施)

G 国会・科学未来館体験

(平成19年7月26日(木)実施)

H 東京職場訪問体験

(平成19年7月26日(木)実施)

(EからHの行事は、60回生2年次の「東京現地学習」の中で全て実施したものである。)

平成19年9月3日発行の「60回生通信(第15号)」ではEからHの活動の目的について以下のようにまとめている。

「この『東京現地学習』事業は、60回生の3年間を通じた進路指導の一環として『金沢大学体験』『大和・京都現地学習(京都大学体験)』に引き続いて計画、実施されたものです。その目的は、『生徒各自が興味・関心に応じて各分野で活躍する人々と交流し、自己の進路についての考えを深める。複雑な行動計画の実践によって臨機応変かつ適切な行動が取れる訓練を行なう。現地学習を通じてこれまで以上に豊かで強固な人間関係を築く』ことにありました。基本的な方法論のコンセプトは、『自分で選ぶ』『自分で行く』『コミュニケーション(交流)』です。

この企画は学年という集団を各自の興味・関心に合わせて複数の段階に細分化し、その時々でグループの編成を自在に切り替えながら、集団活動の中で各自が独自の経験を積むことを目指していました。東京現地学習はこれまで実施した学年行事の中では最高度に複雑で特殊な性格を帯びるものでしたので、その実行にあたっては、緻密な計画の立案は当然として、生徒の非常に切り替えの早い臨機応変な頭脳、高い協調性が要求されまし

た。』

東京現地学習の最大の目的は、生徒各自に

- ①「自己の将来を真剣に考え」
- ②「自己の目標をしっかりと設定して」
- ③「それを実現するために必要な生活を築いていく」

覚悟を持たせることだった。心の中に自己の将来に対する理想や目標を持つことが出来なければ、自己に厳しい生活などできるわけがない。特に第2学年で必要なことは、生徒に自己の進路についてのしつかりとした理想を抱かせ、目標を確立させることだと考えた。

3 各行事の評価

AからHまでの各行事の評価については、各行事終了直後に生徒にアンケートを用いた調査を実施した。

以下にそれぞれの行事についての【1】調査内容・結果、【2】考察を記す。

A 「第1回金沢大学体験」

【1】調査内容・結果

- 大学の環境に直接触れたことについてはどう感じたか。
 - a 非常に有意義であった。 68%
 - b まずまず有意義であった。 28%(有意義 96%)
 - c あまり意義を感じなかった。 3%
 - d 全く意義が感じられなかった。 1%
- (無意義 4%)
- 文理、各学部に分かれて、体験学習をしたことについてはどう感じたか。
 - a 興味・関心にあった学習で、非常に有意義で

- あった。 57% 76%
- b 興味・関心にあった学習で、まずまず有意義であった。 37% 22%
- (有意義 94%)
- c それほど分かれて学習する意味が感じられなかった。 5% 0%
- d 分ける意味はなく全員同じ学習内容の方がよいと思った。 1% 2%
- (無意義 6%)
- 複数のテーマの中から学習内容を選択したことについてはどう感じたか。
- a 興味・関心にあった学習で、非常に有意義であった。 49%
- b 興味・関心にあった学習で、まずまず有意義であった。 48%
- (有意義 97%)
- c それほど選択制で学習する意味が感じられなかった。 2%
- d 全く選択制を取る意味は無く、全員同じ学習内容の方がよいと思った。 1%
- (無意義 3%)
- 少人数制（1講座10人～20人）で、体験学習したことについてはどう感じたか。
- a 全員でよりも、先生との距離が近く非常に充実した学習が出来た。 74%
- b 全員でよりも、先生との距離が近くそれぞれ充実した学習が出来た。 23%
- (有意義 97%)
- c どちらかという全員で学習する方がよいと感じた。 3%
- d 少人数に分かる必要は無く、全員で学習すべきだと感じた。 0%
- (無意義 3%)
- 「金沢大学体験」について、全体を通してあなたはどうか感じたか。
- a 刺激があり、非常に有意義な行事であった。 76%
- b 刺激があり、そこそこ有意義な行事であった。 22%
- (有意義 96%)
- c それほど刺激は無く、あまり意義を感じられなかった。 0%
- d 全く刺激は無く、実施する意義は感じなかった。 2%
- (無意義 2%)
- (文科選択者のみ)大学体験に当たって事前に予習をして講義を受講したことについてはどう感じたか。
- a 負担感無く、予習して講義を受けて充実した体験が出来た。 16%
- b 負担感は無かったが、予習して講義を受ける意義をそれ程感じなかった。 3%
- c 負担感があったが、予習して講義を受けて充実した体験が出来た。 76%
- d 負担感があり、予習して講義を受ける意義もそれ程感じなかった。 5%

【2】考 察

本校のこれまでの進路指導は、高校内で、全ての生徒に一律・一斉に行なう方式が取られてきた。この指導法は、「一々生徒個人の希望や関心に拘っていると実際の指導は不可能だ」という前提の元に、生徒個人の興味や関心をいったん捨象して実施する指導法である。

今回、我々60回生担任団は、このような一律・一斉方式の進路指導ではない指導方法の創造とその可能性について大胆に実験することを目指して、「金沢大学体験」という行事を企画した。

また、その実験の目的は、個人の興味・関心に徹底して拘ることで、生徒の日常生活における学習意欲、将来の進路についての関心をこれまで以上に引き出すことであった。

アンケート調査の結果によれば、

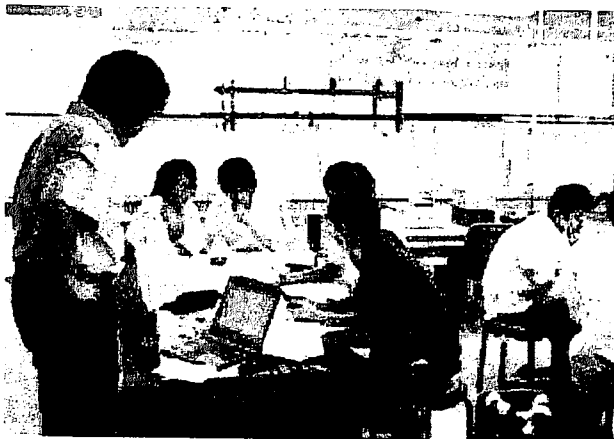
直接大学に出かけたことについて96%の生徒が有意義であったと答えている。学校の外に生徒を連れ出すことは生徒指導上、難しい面もあるが、やはり座学ではなく現場に身をさらす体験を生徒が望んでいることがよく分かった。

また、講座を文・理に大きく二分したこと（有意義94%）、その中に多様な方面にわたる複数の講座を用意し、各自の希望に合わせて選択制で自由に講座を受講できるようにしたこと（有意義97%）、各講座少人数制の実習形式にしたこと（有意義97%）などについては生徒から圧倒的な支持を受けた。

結局、「金沢大学体験」は、進路や学習を考えるに当たって、刺激になり有意義な行事であったかという問に対して、96%の生徒が「有意義であった」と答えた。このことは、行事を企画し、実施した60回生担任団としては衝撃的な結果で、これ以後この指導方針を継続していく上で、大きな励ましとなるものだった。各生徒の興味・関心に細やかに対応すれば、これまで以上に生徒の心を刺激することが出来ることを確信した。

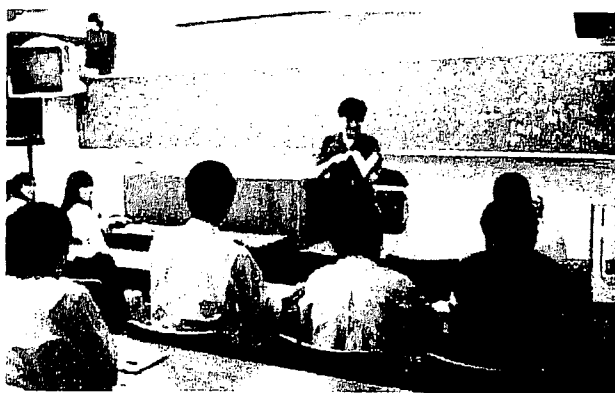
平成18年6月28日発行の「60回生通信」(第4号)では、以下のようにこの行事について総括した。

「6月22日(木)の第1回『金沢大学体験』は、これまでに全く実施されたことの無い行事にしたと金沢大学にお願いして、無理に無理を重ねて



実施していただきました。したがって、大学当局にも多大な労力を払っていただき非常なご面倒をお掛けしましたが、結果としては皆さんにとっても大学でお世話いただいた教官方にとっても、予想以上に有意義で気持ちの良い企画となったようです。

大学教官からの皆さんへの評価は非常に高く、特に『学ぶ姿勢の真面目さ』には感心したとのこと意見を共通して頂きました。……皆さんに真剣に学ぶ姿勢さえあれば、担任団も勇気を持って誰とでもどんな所とでも交渉が出来ます。どんな立派な先生にでも教えていただけるチャンスは有ると思います。」



D 『第2回金沢大学体験』

【1】調査内容・結果

- 大学の環境に直接触れたことについてはどう感じたか。
 - a 非常に有意義であった。 47%
 - b まずまず有意義であった。 39%(有意義 86%)
 - c あまり意義を感じなかった。 11%
 - d 全く意義が感じられなかった。 3%
- (無意義 14%)
- 文理、各学部に分かれて、体験学習をしたことについてはどう感じたか。
 - a 興味・関心にあった学習で、非常に有意義で

- あった。 46%
- b 興味・関心にあった学習で、まずまず有意義であった。 47%
- (有意義 93%)
- c それほど分かれて学習する意味が感じられなかった。 5%
- d 分ける意味はなく全員同じ学習内容の方がよいと思った。 2%
- (無意義 7%)
- (教育・経済・薬学部選択者は答えてください)
- 学部別に分かれた上で、複数のテーマの中から自身で学習内容を選択したことについてはどう感じたか。
- a 興味・関心にあった学習で、非常に有意義であった。 59%
- b 興味・関心にあった学習で、まずまず有意義であった。 36%
- (有意義 95%)
- c それほど選択制で学習する意味が感じられなかった。 5%
- d 全く選択制を取る意味は無く、全員同じ学習内容の方がよいと思った。 0%
- (無意義 5%)
- (教育・経済・薬学部選択者は答えてください)
- 少人数制(1講座7人~22人)で、体験学習したことについてはどう感じたか。
- a 全員でよりも、先生との距離が近く非常に充実した学習が出来た。 69%
- b 全員でよりも、先生との距離が近くそこそこ充実した学習が出来た。 29%
- (有意義 98%)
- c どちらかという全員で学習する方がよいと感じた。 2%
- d 少人数に分かる必要は無く、全員で学習すべきだと感じた。 0%
- (無意義 2%)
- (医学部選択者は答えてください) 医学部選択者全員が一律のテーマで学習したことについてどう感じたか。
- a 興味・関心に合った学習が出来て、非常に有意義であった。 24%
- b ある程度興味・関心に応じた学習が出来て、まずまず有意義であった。 44%
- (有意義 68%)
- c 興味・関心があまり満たされなかった。 21%
- d 興味・関心が満たされなかった。 11%
- (無意義 32%)
- (医学部部選択者は答えてください) 多人数(50人以上)で、体験学習したことについてはどう感じたか。
- a 少人数制と変わらず、緊張感のある非常に充実した学習が出来た。 12%
- b 少人数制と変わらず、そこそこ緊張感のある充実した学習が出来た。 19%
- (有意義 31%)
- c 緊張感がやや不足し、学習内容に物足りなさを感じた。 40%
- d 緊張感が不足し、学習内容が薄いと感じた。 29%
- (無意義 69%)
- 「金沢大学体験」について、全体を通してあなたはどう感じたか。
- a 刺激があり、非常に有意義な行事であった。 53%
- b 刺激があり、そこそこ有意義な行事であった。 34%
- (有意義 87%)
- c それほど刺激は無く、あまり意義を感じられる行事ではなかった。 11%
- d 全く刺激は無く、実施する意義は感じなかった。 2%
- (無意義 13%)

○ (予習の課題が有った人のみ) 大学体験に当たって事前に予習をして講義を受講したことについてはどう感じたか。

- a 負担感はなく、予習して講義を受けて充実した体験が出来た。 18%
- b 負担感は無かったが、予習して講義を受ける意義をそれ程感じなかった。 34%
- c 負担感があったが、予習して講義を受けて充実した体験が出来た。 40%
- d 負担感があり、予習して講義を受ける意義もそれ程感じなかった。 8%

【2】考 察

「金沢大学体験」は、金沢大学全学および各学部教官、事務職員の皆様の多大な協力のもとに始めて可能となった行事であった。文理にわけ、各分野で多様な実習的講座を用意していただくことには自ずから限界もあった。第2回「金沢大学体験」ではそのような問題が浮かび上がってきた。第2回の企画では、理科選択者について多様な講座の設定を前提とする選択性という原則が貫徹されない部分(医学部)があったことが大きな問題点として浮かび上がってきた。

アンケート結果によれば、

直接大学に出かけたことについて86%(前回96%)の生徒が有意義であったと答えている。これは、その割合だけで言えば非常に高い評価であるが、前回と比較して支持率で10%もの下落が見られた。また、講座の多様性、選択性、少人数制が保障された文科生徒においては、講座の多様性、選択性について「有意義であった」が95%、少人数制への支持が98%に上ったのに対して、講座の多様性、選択性、少人数制が確保できなかった医学部研修については生徒の支持率が激減した。50人以上の生徒が一律の講義を受けた医学部研修の支持率は他学部の研修と比較して非常に低いものとなってしまった。

結局、第2回「金沢大学体験」全体を通して、進路や学習などについて考えるに当たって、刺激になり有意義な行事であったかという問に対して、「有意義であった」と答えた生徒は87%(第1回96%)に留まった。

この行事を企画し、実施した60回生担任団としては、行事のコンセプトを貫徹していけばこの行事の効果は絶大なものであるが、各生徒の興味・関心に細やかに対応できなければ、この行事を実施する意味は著しく減退することを実感することになった。

B・C 「京都大学体験」

【1】調査内容・結果

- 「京都大学訪問」行事全体について
 - a 非常に有意義 71%
 - b まずまず有意義 23%
 - (有意義 94%)
 - c あまり有意義ではなかった 2%
 - d 意義は感じなかった 1%
 - (無意義 3%)
 - 無回答 3%
- 「京都大学研究室訪問」について
 - a 非常に有意義 52%
 - b まずまず有意義 42%
 - (有意義 94%)
 - c あまり有意義ではなかった 5%
 - d 意義は感じなかった 1%
 - (無意義 6%)
- 「京都大学桂キャンパス訪問」について
 - a 非常に有意義 48%
 - b まずまず有意義 44%
 - (有意義 92%)
 - c あまり有意義ではなかった 7%
 - d 意義は感じなかった 1%
 - (無意義 8%)

- 「京都大学附属図書館訪問」について
- | | |
|----------------|-----|
| a 非常に有意義 | 27% |
| b まずまず有意義 | 45% |
| (有意義 72%) | |
| c あまり有意義ではなかった | 19% |
| d 意義は感じなかった | 8% |
| (無意義 27%) | |
| 無回答 | 1% |

- 「選択制の体験」について
- | | |
|--------------|-----|
| a 非常に有意義 | 73% |
| b 有意義 | 25% |
| (有意義 98%) | |
| c あまり有意義ではない | 1% |
| d 意義は感じなかった | 1% |
| (無意義 2%) | |

- 「少人数制の体験」について
- | | |
|--------------|-----|
| a 非常に有意義 | 81% |
| b 有意義 | 17% |
| (有意義 98%) | |
| c あまり有意義ではない | 2% |
| d 意義は感じなかった | 0% |
| (無意義 2%) | |

【2】考察

「京都大学体験」の企画についての評価の考察は平成18年9月19日発行の「60回生通信」(第9号)の引用を以って行なう。

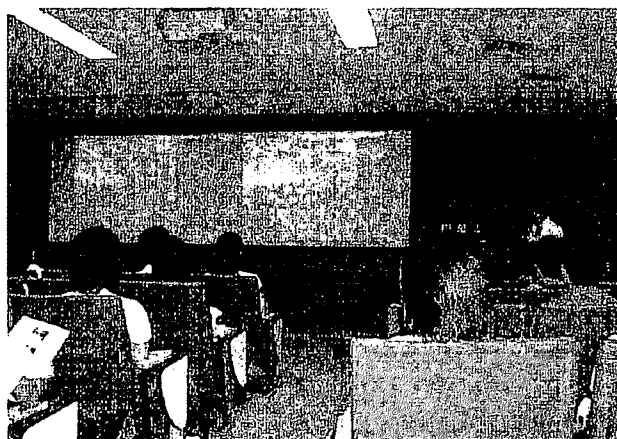
「大学訪問終了直後に実施したアンケートの結果を見れば、京都大学での実地研修が殆どの皆さんにとって非常に充実した体験になったことがわかります。この結果についてはこの事業を企画した担任団としてはとても嬉しく思っております。ただし、各行事別に皆さんの満足度を検証すると、一律にこの行事が皆さんの期待に答えていたわけでは無いことがわかりました。



「京都大学研究室体験」



「京都大学桂キャンパス訪問」



「京都大学附属図書館訪問訪問」

アンケートから「研究室体験」と「桂キャンパス訪問」では、「有意義／無意義」についての皆さんの回答の傾向はほぼ同等で、京都大学体験行事全体の評価とも釣り合うことがわかりました。それに対して、「図書館訪問」についての皆さんの回答は相当に厳しいもので、行事を企画した担任団としては反省し、問題点を洗い出してみました。

アンケートの自由記述を読んで一番の問題点は、「見学時間の短さ」であったようです。また、自由に見て回る機会、実際に書物を手にしてそこで読んでみる機会が無かったことを不満点として上げている生徒が多数見られました。結局、「深い体験」とするには企画が貧弱であったということでしょう。大学図書館の格式の高さが障害となって、形式的な見学に留まってしまった。実質が不足した学習になったことを反省しています。ただし、多くの生徒が、あのような短い時間での図書館見学であったにも関わらず、「大学図書館の張り詰めた雰囲気」「学問研究に励む研究者や学生の真剣さを感じた」などの感想を寄せていることは成果であったと思います。まさにそのことを皆さんに身体で感じてほしいと思って、計画した企画だったからです。

また、学習活動での選択制および少人数制についての皆さんの意見をアンケートからまとめると上記のような結果となりました。

やはり、この結果から推してもこういった進路指導を目的とする学年行事では選択制・少人数制に対する皆さんの要望が非常に強いことが分かりました。進路指導行事全てを一律に全体に対して実施することは、行事の受け手である生徒の気分やその効率の面からしてあまり望ましいことではないという結論でした。

以上のようなことを念頭においてこれからの学年行事を学年団としては企画して行くつもりです。

何はともあれ、「京都大学体験」が多くの皆さんにとって学問や自己の進路を考える上で非常に刺激ある体験となったことを担任団一同喜んでいきます。また、皆さんのこの現地学習に対する真剣な取り組みについては、ご協力いただいた京都大学の先生方や職員の皆さん、大学院生からも非常に好評を得たことを報告しておきます。

旅行についての皆さんの真剣な取り組みに対し、担任団としては本当に満足し、喜びを感じています。いよいよ信頼に足る集団に成長しつつあるという確信を持つことが出来た旅行だったと思います。」

E 東京大学体験

F 卒業生との懇談会

G 国会・科学未来館体験

H 東京職場訪問体験

【1】「東京現地学習」調査内容・結果

現地学習全体の目的について

- 「各自が興味・関心に応じて各分野で活躍する人々と交流し、自己の進路についての考えを深める」という目的の達成については

a 十分に達せられた。	35%
b ほぼ達成された。	51%
(達成 86%)	
c あまり達成されなかった。	14%
d 全く達成されなかった。	0%
(未達成 14%)	
- 「複雑な行動計画の実践によって臨機応変かつ適切な行動が取れる訓練を行なう」という目的の達成について

a 十分に達成された。	54%
b ほぼ達成された。	37%
(達成 91%)	
c あまり達成されなかった。	9%
d 全く達成されなかった。	0%
(未達成 9%)	
- 「現地学習を通じてこれまで以上に豊かで強固な人間関係を築く」という目的の達成について

a 十分に達せられた。	27%
b ほぼ達成された。	61%
(達成 88%)	

- c あまり達成されなかった。 11%
- d 全く達成されなかった。 1%
- (未達成 12%)**
- 現地学習全体の方法について
- 選択制に徹した方法について
- a 非常に有意義だった。 61%
- b 有意義だった。 37%
- (有意義 98%)**
- c あまり意義を感じなかった。 1%
- d みんなが同じである方が良かった。 1%
- (無意義 2%)**
- 少人数制に徹した方法について
- a 非常に有意義であった。 66%
- b 有意義であった。 29%
- (有意義 95%)**
- c あまり有意義ではなかった。 5%
- d 全く意義がなかった。 0%
- (無意義 5%)**
- 各学習プログラムについて
- 東京大学研究室訪問 (25日午前) で実際に東京大学まで行って、その学問環境に触れ、先生方に教えを受けたことについて
- a 非常に有意義な行事であった。 72%
- b そこそこ有意義な行事であった。 24%
- (有意義 96%)**
- c あまり意義を感じられなかった。 4%
- d 全く意義は感じなかった。 0%
- (無意義 4%)**
- 「東京大学研究室訪問」で体験学習をしたことについて
- a 非常に有意義であった。 60%
- b まずまず有意義であった。 32%
- (有意義 92%)**
- c あまり有意義ではなかった。 7%
- d 意義を感じるができなかった。 1%
- (無意義 8%)**
- 「東京大学研究室訪問」では10の研究室訪問の中から自身で学習内容を選択希望する方式を取ったことについて
- a 非常に有意義だった。 68%
- b 有意義だった。 30%
- (有意義 98%)**
- cそれほど意義を感じない。 1%
- d みんなが同じであるほうがよい。 1%
- (無意義 2%)**
- 実際に体験した学習と自己の選択希望との関係について
- a 自己の選択希望が満たされて、非常に有意義な学習体験となった。 33%
- b 自己の選択希望が満たされて、有意義な学習体験となった。 27%
- c 自己の選択希望は満たされたが、あまり有意義な学習体験とはならなかった。 2%
- d ある程度自己の選択希望が満たされて、非常に有意義な学習体験となった。 9%
- e ある程度自己の選択希望が満たされて、有意義な学習体験となった。 14%
- f ある程度自己の選択希望が満たされたが余り有意義な学習体験ではなかった。 1%
- g 自己の選択希望は満たされなかったが、非常に有意義な学習体験となった。 5%
- h 自己の選択希望は満たされなかったが、有意義な学習体験となった。 6%
- i 自己の選択希望は満たされなかったので余り有意義な学習体験ではなかった。 3%
- 「東京大学研究室訪問」では少人数 (原則各班10人) 制で体験学習を実施したことについては
- a 非常に有意義であった。 77%
- b そこそこ有意義であった。 20%
- (有意義 97%)**
- c あまり有意義ではなかった。 3%
- d 有意義ではなかった。 0%

(無意義 3%)

- 「東京大学研究室訪問」では、少人数(原則各班10人)制で体験学習を実施したが、この人数については

- a もっと少ない方がよいと感じた。 21%
b ちょうどよいと感じた。 75%
c もっと多いほうがよいと感じた。 4%
d 全員のほうがよいと感じた。 0%

- 「東京大学研究室訪問」の体験は、自己の進路を決めていくにあたって有意義な体験となったか

- a 非常に有意義な体験となった。 39%
b 有意義な体験となった。 45%

(有意義 84%)

- c あまり有意義ではなかった。 14%
e 全く意義を感じなかった。 2%

(無意義 16%)

- 「卒業生との懇談会」で体験した学習についてはどう感じたか

- a 非常に有意義であった。 38%
b まずまず有意義であった。 40%

(有意義 78%)

- c あまり有意義ではなかった。 18%
d 意義を感じるなかった。 4%

(無意義 22%)

- 「卒業生との懇談会」の方法論(卒業生の自己紹介を参考に、質問したい人、内容を予め決めておく、自分の自己紹介を相手に示す、当日は自己の名刺などを利用しながら自由に懇談するなど)についてどう感じたか

- a 有効に機能していた。 23%
b そこそこ有効に機能していた。 44%

(有効 67%)

- c 有効に機能していなかった。 27%
d 全く有効に機能していなかった。 6%

(無効 33%)

- 「卒業生との懇談会」の体験は、自己の進路を決

めていくにあたって有意義な体験となったか

- a 非常に有意義な体験となった。 34%
b 有意義な体験となった。 42%

(有意義 76%)

- c あまり有意義ではなかった。 20%
e 全く意義を感じなかった。 4%

(無意義 24%)

国会体験・日本科学未来館体験について

- 実際に国会や日本科学未来館まで行って、その環境に直接触れ、そこで働く方々の教えに接したことについてどう感じたか

- a 非常に有意義な行事であった。 58%
b そこそこ有意義な行事であった。 30%

(有意義 88%)

- c 余り意義を感じられない行事だった。 7%
d わざわざする意義は感じなかった。 5%

(無意義 12%)

- 国会や日本科学未来館で体験学習をしたことについてはどう感じたか

- a 非常に有意義であった。 44%
b まずまず有意義であった。 39%

(有意義 83%)

- c あまり有意義ではなかった。 12%
d 意義を感じるできなかった。 5%

(無意義 17%)

- 文科・理科にわけて学習内容を分ける方式を取ったことについてはどう思ったか

- a 非常に有意義だと思う。 42%
b 有意義だと思う。 21%

(有意義 63%)

- c あまり意義を感じない。 32%
d 無意味で、みんな一緒が良いと思う。 5%

(無意義 37%)

- 「職場訪問体験」で実際に職場まで行って、その環境に直接触れ、職場で働く方々に教えを受けたことについてどう感じたか

- a 非常に有意義な行事であった。 62%
- b そこそこ有意義な行事であった。 30%
- (有意義 92%)
- c 余り意義を感じなかった。 5%
- d わざわざする意義は感じなかった。 3%
- (無意義 8%)
- 「職場訪問体験」で体験学習をしたことについてはどう感じたか
- a 非常に有意義であった。 51%
- b まずまず有意義であった。 33%
- (有意義 84%)
- c あまり有意義ではなかった。 12%
- d 意義を感じる事ができなかった。 4%
- (無意義 16%)
- 「職場訪問体験」では13の職場の中から自身で学習内容を選択希望する方式を取ったことについてはどう思ったかの質問に対して、
- a 非常に有意義だと思う。 67%
- b 有意義だと思う。 27%
- (有意義 94%)
- c それほど意義を感じない。 6%
- d みんなが同じであるほうがよい。 0%
- (無意義 6%)
- 「職場訪問体験」は皆さんから選択希望を取る方式で実施しましたが、実際に体験した学習と自己の選択希望との関係についてはどう思ったか。
- a 自己の選択希望が満たされて、非常に有意義な学習体験となった。 38%
- b 自己の選択希望が満たされて、有意義な学習体験となった。 20%
- c 自己の選択希望は満たされたが、あまり有意義な学習体験とはならなかった。 7%
- d ある程度自己の選択希望が満たされて、非常に有意義な学習体験となった。 8%
- e ある程度自己の選択希望が満たされて、有意義な学習体験となった。 6%
- f ある程度自己の選択希望が満たされたが、余り有意義な学習体験ではなかった。 3%
- g 自己の選択希望は満たされなかったが、非常に有意義な学習体験となった。 6%
- h 自己の選択希望は満たされなかったが、有意義な学習体験となった。 4%
- i 自己の選択希望は満たされなかったので、有意義な学習体験ではなかった。 8%
- 「職場訪問体験」では、少人数(原則各班10人)制で体験学習を実施したことについて
- a 非常に有意義であった。 71%
- b そこそこ有意義であった。 26%
- (有意義 97%)
- c あまり有意義ではなかった。 3%
- d 有意義ではなかった。 0%
- (無意義 3%)
- 「職場訪問体験」では、少人数(原則各班10人)制で体験学習を実施したが、この人数についてはどう感じたか
- a もっと少ない方がよいと感じた。 18%
- b ちょうどよいと感じた。 77%
- c もっと多いほうがよいと感じた。 5%
- d 全員のほうがよいと感じた。 0%
- 「職場訪問体験」は、自己の進路を決めていくにあたって有意義な体験となったか
- a 非常に有意義な体験となった。 42%
- b 有意義な体験となった。 37%
- (有意義 79%)
- c あまり有意義ではなかった。 17%
- e 全く意義を感じなかった。 4%
- (無意義 21%)

【2】「東京現地学習」考察

「東京現地学習」企画についての評価の考察は平成19年9月3日発行の「60回生通信」(第15号)の引用を以って行なう。

「東京現地学習実施直後に実施したアンケートの結果を見れば、東京現地学習での実地研修が殆どの生徒にとって非常に充実した体験になったことが伺われる。特に現地学習の目的の達成度については9割弱からほぼ10割までの範囲で達成されたとの回答を得た。また、方法についても9割からほぼ10割までの範囲で有意義であったとの回答を得た。



東京大学研究室訪問

各行事別に生徒の満足度を検証すると、それぞれ微妙に異なっていることがわかった。アンケート結果から、各企画について生徒が有意義であったと認めている割合は

「東京大学研究室訪問」(96%)、

「卒業生との懇談会」(78%)、

「国会・科学未来館体験」(88%)、

「職場訪問」(92%)。

選択制・少人数制への支持は非常に強く、選択制については

「東京大学研究室訪問」(98%)、

「職場訪問」(94%)、

少人数制については

「東京大学研究室訪問」(97%)、

「職場訪問」(97%)

が有意義であったと答えている。また、グループ分けについても1グループ10人程度が最適で、それ以上でもそれ以下でも支持率が落ちることがわかってきた。……「国会・科学未来館体験」(88%)では、特に「科学未来館」で過ごせる時

間が少なかったことを残念に思った生徒が相当数に上った。せっかく最高に面白い「科学未来館」に来て思う存分見学する時間が無かったことは企画者として反省している。ただし、未来館の特別な配慮で毛利衛さんから直接生徒に話しかけて頂いたことで、生徒の欲求不満が相当に解消されたのは幸いだった。……



卒業生との懇談会

担任団として最も苦勞して企画した「卒業生との懇談会」の支持率が高いとは言え78%に留まったことは示唆的な結果であったと思う。多くの人の中から自分の話したい相手を見つけ、自分から話しかけていくということが如何に難しいことを生徒は実感したと思われる。非常に積極的に動いて熱心に会話を交わすことができた生徒と、なかなか話しかけることが出来ず欲求不満が溜まった生徒に分かれたところがあった。沢山の人の中で物怖じせずに心を開いて話しかけることが出来る「コミュニケーション能力」を養成することが、これからの生徒指導の重要なテーマになることを実感した。

何はともあれ「東京現地学習」が多くの協力者のお陰で、生徒にとって非常に刺激に溢れた体験となったことは事実である。生徒のこの企画に対する真剣な取り組みについては、この企画にご協力いただいた多くの方々から非常な好評を得たこともまた事実である。」



最後に

平成18年4月に60回生を受け持ってから、もう2年と6ヶ月が経過した。彼らも既に3年生。今は受験勉強の真っ盛りで、1、2年生での楽しかった思い出も封印されていることと思う。

我々60回生担任団3人が、当時精魂込めて企画し、実施した学年行事が、彼らの将来に幾分でも役立ち、心の隅に残り続けていくようであればこの上ない幸せであると思っている。

思い返せば、学年運営としては全く常識外れな計画が実施できたのも偏に本校の伝統である「自由な校風」のお蔭である。奥田校長をはじめとする全先生方のご理解とご協力がなかったならば決して実現できなかった指導であったとつくづく感じる。また、外部から多大なサポートをしていただいた大学関係者、実業界、官界の方々、特に同窓生の皆様のご協力の賜物と感謝している。

最後に、この企画の全工程にわたって、常に「情熱があるのならやって下さい。それが金大附属高校教員の生き方です」と励まし続けて下さり、退職後も東京現地学習に影のように帯同していただき、生徒および担任団をサポートして下さった木村前副校長に感謝を申し上げます。